

第4回次期愛知県スポーツ推進計画策定委員会 会議録

1 日時

2023年1月17日（火） 午前9時30分から午後11時20分まで

2 場所

愛知議会議事堂1階ラウンジ

3 出席者

來田享子（座長）	井澤悠樹	伊藤央二	大勝志津穂
大竹正芳	小島寿文	田中希代子	中嶋和男
平井克明	藤嶋典弘		

（欠席委員：高橋淳一郎、寺田恭子、淀川悦子）
（会長除き 50 音順、敬称略）

4 傍聴人等

1名

5 議題

- (1) 次期愛知県スポーツ推進計画（仮称）の答申案について
- (2) その他

議題および議事の要旨

事務局

定刻となりましたので、ただいまから、第4回次期愛知県スポーツ推進計画策定委員会を開催させていただきます。本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

私は司会を務めます、愛知県スポーツ振興課担当課長の市川でございます。毎度でございますが、新型コロナの感染防止のため、皆様にはマスクの着用や会場入口の消毒にご協力いただくとともに、座席の距離の確保、マイクの消毒など対策を徹底して開催いたします。

なお、本日は傍聴人1名となっております。

それでは、開会にあたりまして、愛知県スポーツ局長の成瀬から挨拶を申し上げます。

スポーツ局長

愛知県スポーツ局長の成瀬でございます。委員の皆様方におかれましては、日頃から本県のスポーツ行政の推進につきまして格別のご理解とご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。また、本日は第4回策定委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

策定委員会は今回が最終回となりますが、これまで委員の皆様から幅広くご意見をいただき、また、パブリック・コメントや、市町村・競技団体への意見照会、スポーツ関係団体へのヒアリングなどを踏まえまして、検討を重ねてまいりました。今回は議論の総括として、次期計画の答申案につ

いてご意見をいただきたいと考えておりまして、各施策の具体的な取組の方向性や進捗管理目標等について、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局

本日は、座長をお願いしております中京大学スポーツ科学部教授の來田享子様をはじめ、10名の委員の方にご出席いただいております。東海学園大学スポーツ健康科学部講師の井澤悠樹様、愛知県中小学校体育連盟会長の平井克明様は、オンラインにてご出席いただいております。

それでは、これより先の進行は來田座長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

來田座長

年が明けまして今回が最終回となりました。本年最後の議論ですけれども、どうぞよろしくお願ひいたします。

先ほどスポーツ局長から、メディア記事に関するご発言がありました。アジア大会・アジアパラ競技大会に関して、色々な先生方が取材等を受けるようなタイミングになってこようかと思ひます。東京大会の場合は、理事の方とメディアとの議論がなかなか表に出てこなかったところがあったということで、双方のコミュニケーションがうまくいっていなかったということで、結局試合を運営する側は批判を受けてもそれを活かせず、パフォーマンスを落としてしまうような雰囲気に進んでしまったことが記憶に残っています。それはやはり良くないことで、みんなが“頑張ろう”と思ひて準備できる状況にしなければ、職員の方は本当に大変だと思ひます。ですので、今回のスポーツ推進計画の策定を通して、そういう雰囲気を作っていかなければならないと強く感じています。

大会の経費についても、開催都市契約を締結するときには、他大会と一律に比較ができなければならないので、ミニマムサイズの共通部分について比較対照することが原則となります。経済状況も、法律も、文化状況も違う国にある都市を、候補都市として比較するわけですから、一定の基準の中で比較するしかないこととなります。そのミニマムサイズの数字が全ての数字であるというふうに、そこから増えた部分だけを議論するというような方向になってしまいがちです。先日、ある取材を受けた際も、そのあたりのことをお伝えしました。そういう仕組みが伝わっていないことが多くの誤解を生んでいくこととなるため、丁寧過ぎるくらいに、情報を出して議論していくことが必要だと感じています。

今日はスポーツ推進計画の議論ですので、少し横道に逸れましたけれども、このスポーツ推進計画の策定に当たっても、愛知県の場合は、初期の段階からスポーツ政策等とアジア・アジアパラ大会の招致・開催とを一体化させながら議論をしているということも取材ではお伝えしましたので、委員の皆様も取材等を受ける機会がありましたら、そうした流れもお話いただいた上で、批判的な見解をいただけた場合には、それを政策に反映させていくという、そういった方向が取れば良いと思ひます。こうした考え方が今日の最後の議論に集約されていけばと思ひておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは議事に入ります。本日の議題は「次期愛知県スポーツ推進計画

(仮称)の答申案について」ということになります。会議の進行につきましては、これまでと同様に、まず事務局から説明をいただき、その後に皆様からご意見を伺うという形をとりたいと思います。ご発言につきましては、1巡目として、主に資料1、答申案ですね、少々分厚いですが何度か見ていただいたものです。答申案における「施策の体系と具体的な取組の展開」というところを中心にご意見をいただきたいと思います。それから2巡目に、主に資料2の進捗管理目標についてご意見をいただきます。前回からアップデートしてくださっていますので、これについてご意見をいただきたいと思っております。この1巡目と2巡目が終わりましたら、自由にご発言いただく時間を設けたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひします。会議を円滑に、時間内に終わらせたいと思ひますので、恐縮ですが、1回のご発言は大体2～3分でまとめたいただくと大変ありがたいと思ひます。

それでは資料の説明をお願いいたします。

事務局

スポーツ振興課長の山肥田でございます。よろしくお願ひします。まず資料1をご覧くださいませでしょうか。次期計画の答申案でございます。前回の策定委員会の際にお示しした素案をもとに、会議においていただいたご意見や部活動における地域移行に関する国の動きなどを踏まえるとともに、簡易な語句の修正や補足説明が必要な文言については注釈を加えるなどの修正を行い、作成させていただいたものでございます。

時間の関係もありますので、主な修正点に絞ってご説明させていただきます。まず5ページをご覧くださいませでしょうか。今後の主なスポーツ関連の動きのところでございますけれども、上から2番目、学校部活動に関する記述がございます。年末に国から発表されました「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」によりまして、学校部活動の地域移行について、これまで2023年から2025年の3年間を改革集中期間として、2025年を地域移行の達成時期の目途とされていたものが、“地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す”と改められるなどの修正が加えられたことから、新しいガイドラインの内容に沿う形でこの部分を修正しております。

続いて7ページをご覧くださいませでしょうか。小島委員の代理でご出席いただきました古井委員や大竹委員からご意見をいただきました、インターハイの開催や、大阪で行われます日本国際博覧会の開催について追加をさせていただいております。

次に12ページをご覧くださいませでしょうか。印刷の関係で少しページ番号が見にくくなっており、申し訳ございません。「I 多様な主体におけるスポーツに関わる機会の創出」に関するところがございます。ページの下の方ですけれども、「スポーツ人口の裾野拡大」の「親子で楽しめるスポーツ機会の創出」の2つ目の丸、ここにマインドスポーツと記載していましたが、藤嶋委員からいただいたご意見を踏まえて、「ニュースポーツ」という文言に修正しまして、ここでは「する」スポーツに関する記述として整理いたしました。その上で、ニュースポーツの定義を追記しております。また、藤嶋委員からご発言いただきました「eスポーツ」につきまして

は、少し飛びますが 36 ページをご覧くださいませでしょうか。36 ページの上段、丸の 1 つ目にですね、“e スポーツをはじめ、デジタル技術の活用を通じて県民のスポーツへの参画が促進されるよう、取組を推進していく”という方向性を整理させていただいております。

続いて 19 ページをご覧くださいませでしょうか。ここは「Ⅱ 子どものスポーツ活動の充実」に関する箇所でございますが、ページの一番下、「多様なニーズに応じた運動部活動の推進」の「地域のスポーツ資源を活用した指導の充実」につきましては、田中委員からいただいたご意見を踏まえ、部活動指導の充実に向けた取組の連携主体として、スポーツチームを追加しております。

1 枚おめくりいただきまして、20 ページをご覧くださいませでしょうか。大勝委員や平井委員から頂いたご意見を踏まえまして、「教員の指導力向上」をこの項目から削除するとともに、「持続的な運動部活動の推進」の 2 つ目の丸について、古井委員からいただいたご意見を踏まえ、バーンアウト、いわゆる燃え尽き症候群の防止の観点を盛り込んでおります。また、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」の内容を踏まえ、必要な修正を加えております。なお、学校部活動の地域移行の推進につきましては、今後の国の動きを注視しながら、必要に応じて内容の修正や追加について検討してまいりたいと考えております。

次に 38 ページ以降に参考資料を付けておりますが、昨年度に実施した基礎調査の内容や本計画の策定経緯を盛り込むなど、もう少し内容を充実してまいりたいと考えております。

簡単ではございますが、資料 1 の説明については以上となります。

次に資料 2 をご覧くださいませでしょうか。A 4 版の、1 枚紙の資料です。これは次期計画の名称とキャッチコピーのイメージを整理したものでございます。これまで「次期愛知県スポーツ推進計画（仮称）」としておりましたけれども、次期計画の正式名称を定めるとともに、伊藤委員からいただいたご意見を踏まえ、キャッチコピーについても検討してまいりたいと考えております。

まず名称につきましては、「愛知県スポーツ推進計画 2023-2027」としたいと考えております。これはスポーツ基本法第 10 条の「地方スポーツ推進計画」という文言を踏まえつつ、県の他の計画の例も参考に、計画期間を併記したものでございます。

次にキャッチコピーにつきましては、次期計画の趣旨を端的に表す表現としたいと考えておりますが、事務局にてイメージを検討しましたので、これをたたき台として、委員の皆様からのご意見を踏まえて検討を進めてまいりたいと考えております。

次に資料 3 をご覧くださいませでしょうか。2 巡目でご意見をいただきたい部分でございます。これは次期計画における数値目標を整理したものでございます。前回会議におきまして、來田座長からいただきました“あまり手間のかからない形”や“数字を永遠に増やし続けることは難しく、現実的により良くできる指標を置く必要がある”といったご意見も踏まえ

つつ、庁内において検討を進めてまいりました。

まず1ページ目は、次期計画に掲げる3つの目指すべき姿に対応するものでございまして、成人と障害者における「週1回のスポーツ実施率」やオリンピック・パラリンピックなど「国際大会に出場する本県ゆかりの競技者数」、そして「県が主催するスポーツ大会への参加者数、観戦者数」を数値目標としたいと考えております。

2ページ以降は、次期計画に整理しました施策ごとの数値目標を整理しております。まず2ページ、ここは「Ⅰ 多様な主体におけるスポーツに関わる機会の創出」関係でございすけれども、ここにつきましては、「県内スポーツ情報を発信するウェブサイトのアクセス件数」をはじめ、「SNSのフォロワー数」、そして大勝先生からいただいたご意見を踏まえ、「子育て世帯のスポーツ実施率」を盛り込むこととしております。

また、中嶋委員からいただいたご意見を踏まえ、ささえる人材の確保に向け、「県が主催するスポーツ大会に参加するボランティア数」や「あいちパラスポーツサポーターの養成人数」を盛り込むとともに、障害者スポーツの振興に向け、「愛知県障害者スポーツ大会出場者数」、「障害者スポーツ参加促進事業の参加人数」等を盛り込んでおります。

さらに、井澤委員からいただきましたご意見を踏まえ、「県内総合型地域スポーツクラブの新規加入会員数」や「登録・認証制度における登録クラブ数」を盛り込み、総合型地域スポーツクラブの質的向上を推進してまいりたいと考えております。

1枚おめくりいただきまして、3ページは「Ⅱ 子どものスポーツ活動の充実」関係でございす。ここでは、国の第3期スポーツ基本計画に掲げられた数値目標についても勘案し、子どもの体力向上を図るための指標として、「新体力テストの総合評価がC以上である児童・生徒の割合」や、「1週間の総運動時間が60分未満の児童・生徒の割合」を盛り込んでおります。

また、体育の授業や運動部活動の充実に向けた取組の進捗状況を測るための指標として、「卒業後にも運動やスポーツをしたいと思う児童・生徒の割合」や県立学校の「運動部活動における外部指導者の活用数」等を盛り込んでおります。

1枚おめくりいただきまして、4ページは「Ⅲ トップアスリートの育成、活躍支援」でございす。ここでは、あいちトップアスリートアカデミーに係る指標として、「選考会への参加者数」や「全国大会、東海大会へ出場する人数」等を盛り込むとともに、アジア競技大会、アジアパラ競技大会に向けて各競技団体の大会運営能力の向上を図るための指標として「国際・上級審判員や公認クラシファイヤー等の競技運営人材の強化育成に取り組む団体数」を盛り込んでおります。さらに、「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数」や「「スポーツ団体ガバナンスコード」の遵守を公表する県内の競技団体数」といった数値についても適切にモニタリングしてまいりたいと考えております。

1枚おめくりいただきまして、5ページは「Ⅳ アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催、レガシー創出」関係でございす。ここでは「アジ

ア競技大会、アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」に掲げられた、2030年頃を目標年度とする数値目標である、「県内における新たな国際スポーツ大会の開催数」や大会に関連した「アジア各国との交流件数」を本計画においても位置付けるとともに、大会におけるボランティア数や機運醸成のためのイベント開催数についても盛り込み、大会の開催やレガシー創出に向けた準備をしっかりと進めてまいりたいと考えております。

1枚おめくりいただきまして、6ページは「V スポーツによる地域活性化」関係でございます。ここではスポーツを通じた交流人口を把握するための指標として、「県が主催するスポーツ大会への県外・海外からの参加者数」や、大竹委員からいただいたご意見を踏まえ、「観光レクリエーション資源・施設利用者数」を盛り込むとともに、スポーツチームと連携した取組を積極的に進めていくため、「スポーツイベント等におけるあいちスポーツコミッションとプロスポーツチーム等の連携取組数」についても盛り込んでおります。なお、スポーツの成長産業化に関する指標についても、関連部局と検討を進め、加えてまいりたいと考えております。

資料3に関する説明は以上となります。これらの項目に係る目標値については現時点では設定しておりませんが、本日の議論を踏まえて目標項目を確定した上で、2月20日に開催する愛知県スポーツ推進審議会までには設定し、審議会のご意見を踏まえて確定した上で、適切に計画の進捗管理をしてまいりたいと考えております。また、成果や課題等につきましては、適宜審議会に報告してご意見を頂戴してまいりたいと考えております。

また、先ほど「IV アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催、レガシー創出」関連をご説明させていただきましたが、こちらについては、1月24日に開催される、「アジア競技大会・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」に係る有識者会議においても議論される予定となっておりますので、そちらの議論も踏まえて設定してまいりたいと考えております。

次に資料4でございます。こちらにつきましては、第3回策定委員会において頂いたご意見を整理したものでございます。会議におきましては、主に次期計画の素案における「施策の体系と具体的な取組の展開」に関するご意見と、「進捗管理目標」についてのご意見をいただきましたので、資料の左側と右側に分けて記載をさせていただいておりますので、ご参考としていただけたらと思います。

次に資料5でございます。こちらは本日のご欠席の高橋委員、寺田委員、淀川委員からいただいたご意見を整理したものでございます。

高橋委員からは、「進捗管理目標に「選考会への参加者数」を掲げているが、競技人口の裾野を広げていく上では非常に重要な視点。可能な限り参加者数を維持できるよう取り組んでいただきたい」といったご意見や、「競技団体の運営能力については、審判員の高齢化が進む団体が多く、数年先にはアジア競技大会・アジアパラ競技大会という目標もあるため、愛知県にとっては喫緊の課題」といったご意見をいただいております。

寺田委員からは、「障害のある方のスポーツへの参加促進に向けては、自

宅からアクセスしやすい場所でのスポーツのきっかけを創出していく取組が重要」といったご意見や、「スポーツの多様性や楽しさ、喜びを発信し、多くの方に理解していただくことも重要。そのためには教員の役割は大きいと思うが、保護者に対するアプローチも必要」といったご意見をいただいております。

淀川委員からは、「学校部活動が今回の計画においてトピックの1つとなると思うが、学校と地域との連携の中で、生徒の選択肢や可能性が増えていくことを期待したい」といったご意見や、「子どもが部活動を通じて充実した時間を過ごすためには、意欲や能力のある指導者が必要であるため、「運動部活動における外部指導者の活用数」についてもしっかりと進めていくべき指標」といったご意見をいただいております。

続いて資料6をご覧くださいませでしょうか。こちらは、スポーツに関する現状や課題等を把握するために実施した、スポーツ関係団体に対するヒアリングの概要を整理したものでございます。障害者スポーツの普及・振興の観点から日本パラスポーツ協会、競技力向上の観点から愛知県バレーボール協会、スポーツツーリズムの観点から愛知県観光協会に対してヒアリングを実施いたしました。

1枚おめくりいただきまして、日本パラスポーツ協会からは、「総合型地域スポーツクラブやサークル活動への参加など、身近な地域で日常的に運動スポーツに取り組むことができる環境づくりを進めることが、運動・スポーツの継続・定着には必要」といったご意見や、「バリアフリーにおいて重要なのは会場までのアクセスである。スポーツイベントの開催を通じて、まちや人が変わっていけば良い」といったご意見をいただきました。

1枚おめくりいただきまして、愛知県バレーボール協会からは、「大会運営能力を高めることが必要で、SNSでの発信などの地道な取組を通して、大会を支える人材の裾野を広げていきたい」といったご意見や、「様々な世代のチームをつなげることが競技団体としての課題。各カテゴリーのチームとタグを組みながら取り組んでいきたい」といったご意見をいただいております。

1枚おめくりいただきまして、愛知県観光協会からは、「核となる観光資源のない場所では、スポーツ大会やイベントの開催により来訪のきっかけづくりに取り組むことが効果的であり、練習スポットとして聖地化することも一つの方法」といったご意見や、「観戦だけではなく地域の観光資源を観て体験していただくなど、いかに飲食や宿泊などの観光消費につなげていくのかを検討していく必要がある」といったご意見をいただいております。

最後に参考資料としまして、次期計画の答申案の概要版をお配りしております。

長くなりましたけれども、本日の資料についてのご説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

来田座長

最初に資料1の主な変更点をご説明いただきましたが、この資料にもとづく議論はこれが最後となりますので、1巡目では主に答申案についてお気づきの点をお話しいただければと思います。

井澤委員につきましては 10 時半頃にご退出ということをお伺っておりますので、差し替えなければ 2 巡目でお話いただく数値目標のところについても併せてご発言いただいても結構ですので、よろしくお願ひします。

では井澤委員、よろしくお願ひします。

井澤委員

東海学園大学の井澤でございます。最後の会議にも関わらず、オンラインでの参加となり申し訳ありません。

毎度のことながらですけれども、我々の自由な発言を踏まえておまとめいただきまして、事務局には本当に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私の方からはですね、資料 1 の 12 ページですね。「スポーツ人口の裾野拡大」のところを中心に拝見させていただきました。その中で、SNS 等を活用した情報発信の丸の 3 つ目、総合型地域スポーツクラブのことについても「aispo!Do!」の活用の中で触れられているのですけれども、細かい話にはなりますが、大会やイベントといった単発的なことだけではなく、普段からスポーツに関わることができる場についても紹介していくような内容にした方が良いのかなと感じています。そういう意味では、例えばクラブ自体の紹介、この地域にはこういうクラブがあるとか、そういった内容などについても盛り込んでいく方が良いのではないかと感じています。

続いて 15 ページ「地域のスポーツ環境の充実」のところですが、その一番下、「クラブの質的向上に向けた「登録・認証制度」の活用」の部分で、上から 3 行目の後半に、「各クラブが登録基準を満たすよう働きかけていく」と書かれているのですが、登録することが目的というよりも、「登録・認証制度」の目的はやはり、クラブ質的向上と持続可能なクラブ運営の実現というところが根底にありますので、基準を満たすよう働きかけていくというところを書くよりも、制度を活用して持続的、自立的なクラブの実現を目指していくというような構成の文章の方が良いのかなと考えます。

資料 1 に関しては、私の方からは、気になった点は以上です。

先ほど來田先生からもご発言を許されましたので、資料 3 の進捗管理目標のところについて一点だけ私の方から意見させていただきます。2 ページ目ですね、「I 多様な主体におけるスポーツに関わる機会の創出」の進捗管理目標ですけれども、下から 4 つ目、「総合型地域スポーツクラブで実施する障害者スポーツプログラムの参加者数」について、「スポーツに関わる」という部分をどう捉えるのかにもよりますが、これを「障害者スポーツプログラムの参加者数」という書き方をすると、どうしても「する」スポーツに行きがちなので、例えばプログラムの参加者数というよりも、クラブに関わる人数という形で、運営を手伝うとか、プログラムをサポートするとか、中には一緒にプレーするというところも含めて、広く捉えるような書き方が良いかなと感じています。

來田座長

ありがとうございます。10 時半まではいらっしゃるということですので、もし言い忘れたことがあれば遠慮なく、途中でもご発言いただければと思います。そして数値目標のところについては、先ほどご発言いただいたことを踏まえながら、後の議論の中でもう少し詰めていきたいと思ひます。

伊藤委員

それでは伊藤委員、お願いできますでしょうか。

非常に上手くまとめていただき、ありがとうございます。最終段階ということでかなり中身も多く、細部にわたってかなり詰められた計画かな、というふうに拝見しました。

少し順番が逆になるかもしれませんが、資料2のキャッチコピーについて、前回の会議での発言を汲み取っていただきありがとうございました。この中でキャッチコピーのイメージ、5つ挙げられていましたけれども、どれも良いキャッチコピーだなと思いました。中でもですね、個人的な意見にはなりますが、この会議を通して感じてきたことはですね、やはりこの計画の成果達成目標のところでも3つ挙げられているとおり、全てに人が関わっているところが、今回の愛知県スポーツ推進計画の特徴かなと思いました。

そのため、そういったことがわかるような、“つながる”という言葉が入っている4つ目は、スポーツで人々がつながっていくというイメージであり、個人的には共感するキャッチコピーかなと思います。読点が2つあるため、少し読みづらくなってしまう印象があるかも知れませんが、スポーツで人がつながっていくというこのキャッチコピーは、今回のスポーツ推進計画を表しているところかなと思います。成果達成目標としてスポーツ実施率とか、あとは競技者数ですね。国際大会に出る競技者数とか、あとはスポーツ大会の参加者数や観戦者数、全て人が関わってくるため、なるべくそういったことが分かるようなキャッチコピーになれば良いなと思っています。

中身に関しては、今からこういうところを変えた方が良いのではないかと、といった意見はありませんが、私が今まで中心的に意見をしてきた「V スポーツによる地域活性化」のところですね。35ページのところで、武将観光等の施策が出てきますが、団体ヒアリングにおける愛知県観光協会からのご意見にも出てくるところで、愛知県では武将に関する観光がかなり盛んなんだなというのは、私は愛知県に来てまだ2年しか経過していないところですが、実感するところです。この武将観光は、今スポーツ庁が進めている武道ツーリズムともかなり親和性が高いのかなと思いますので、そのあたり、武道ツーリズムについても推進していけば、上手く国の流れとの相乗効果が期待できるのかなと思いました。その中で、武将観光などを特色として出していくことができれば、愛知県の強みになっていくのかなと思います。

あと1つ全体的に気になった点として、こうした施策をどのように実施していくのかというところがあります。今回は予算に関する議論ではありませんが、この計画に整理された色々なイベントを実際に進めていけるのかというところを、次のフェーズでは見ていかなければいけないと思っています。例えば35ページの一番最初のところにアーバンスポーツに関する記載があります。アーバンスポーツは、東京2020大会後に色々な都市が取組を進めていく中で、どの都市もなかなか聖地化まで至っていないところだと思います。愛知県観光協会のヒアリング概要の1つ目のポイントにも記載がありますが、どこが最初に聖地化していくのかというところで、私

が関わっている大阪府では、“頑張っアースポーツをやっていこう”というところで、先週末にイベントがあり、3月にはまたイベントがあるのですが、関係予算として6千万円を計上していると聞いています。

“アースポーツを推進する”と言うのは簡単なのですが、それをどうやって実際に進めていくのかというところを今後考えていかなければならないかなと思いました。

これは今回の議論とは関係ないところではありますが、今後大切なところかなと思いましたので指摘をさせていただきました。

來田座長
事務局

ありがとうございます。事務局からコメントはありますか。

武将観光のご意見をいただきましたけれども、先日発表させていただいたのですが、世界弓道大会を来年2月に愛知・名古屋で開催することが決まりました。結構ヨーロッパからの参加者が多くて、日本人も含めて千名くらいが大会に参加されます。大会は1日となりますが、その前後に昇段審査があったり講習会があったりということで、ヨーロッパをはじめとした30か国くらいの国々から来訪された方々が長期間滞在することになりますので、これをモデルケースとして武将観光についてはより充実した取組ができるようにしたいと思います。また、このことについて発表した際には、NHKの家康のドラマと関係があるのかとか、マスコミからも注目していただきましたので、そういった点も絡めながら、うまくPRしていきたいと思います。

來田座長

ありがとうございます。

大勝委員

それでは次に大勝委員お願いします。

本当に色々まとめていただきありがとうございました。気になった点を手短にお話します。私はスポーツ人口の裾野拡大のところで、特に親子世代のところをこれまで発言させていただきました。その点については、「親子で楽しめるスポーツ機会の創出」で挙げていただきましたので、先ほど伊藤委員からも発言がありましたが、これをどういうふうの実現していくのかというところを今後は知恵を絞らないといけないと思っています。

また、親子のところで言うと、やはり親の方が運動嫌いだったりとか、スポーツそのものに関心がない方だと、なかなか親子のアプローチを打ち出してもスポーツそのものに引っ張れないところもあります。そのあたりも踏まえて、どういうふうアプローチをしていくのかを考えていかなければならないと思っています。

「企業と連携した健康づくり支援」のところで、働く世代のことを書いていただきました。「健康経営」という言葉は、企業の方々にも浸透していると思いつつ、なかなか中小企業では取組が進んでいない、進めることが難しいという現実もあると思いますので、企業と一緒に働く人たちの健康を支援していく方法を検討できればよいと思いました。

次に、「する」スポーツのところに関連してくるのですが、競技人口を増やしていくということはすごく大事だと思いますが、そうすると、試合を運営していくことが必要となります。トップアスリートだけではなくアマチュア、子どもたちもそうですし、試合をしていくにはやはり審判が必

要です。「大会運営能力の向上」のところでも盛り込めるかもしれませんが、国際とか上級までいかない、一般の方々の試合を運営する審判の育成を競技団体の方に示していけると良いと思います。競技団体の方も、審判の育成や確保には大変困っている現状もありますので、このあたりを計画の中に入れていけるとより良いと思いました。

あと1点、文言のところですけども、31ページの「外国人県民との相互理解の促進」のところ、「本県に滞在する、アジア各国にルーツを持つ多くの外国人県民」とあり、アジアに絞っているというふうに読み取れてしまうのですが、“アジア以外の方々はどうなんだろう”と思われかねないため、ここは文言を検討した方が良いと思いました。

来田座長
大勝委員

はい、ありがとうございます。キャッチコピーについてはいかがですか。キャッチコピーについては、私は今回議論をさせていただく中で、今回の計画期間にはアジア・アジアパラ大会が開催されるため、それを契機に次のステップへ、というところをキャッチコピーの中で盛り込むことができれば良いと思っています。その点で、3つ目にあるスポーツの力とか、それを愛知の成長につなげていくということを入れると良いと思いました。

来田座長

はい、ありがとうございます。先ほど井澤委員にキャッチコピーのことをお伺いしなかったんですけど、井澤委員、キャッチコピーについてもご発言いただけませんか。

井澤委員

はい、ありがとうございます。伊藤委員と大勝委員のお話を聞いて、この辺をうまくミックスできれば良いかなとは感じています。

アジア大会を契機とするということと、人がつながるというところで、愛知をいかに成長させるのかというようなキャッチコピーになっていけば、この計画がうまく反映されるのかなと思っています。

来田座長
事務局

ありがとうございます。何か事務局からはコメントがありますか。

「外国人県民との相互理解の促進」に関するご指摘につきましては、確かにその通りだと思いますので、広げる方向で書きぶりを修正しようかと思っています。

来田座長
大竹委員

ありがとうございます。それでは、大竹委員お願いします。

商工会議所の大竹でございます。当局におかれましては、実務の部分でも大変なご苦勞があったと思いますけれども、取りまとめに関して感謝を申し上げたいと思いますし、私が申し上げた意見も反映していただいて、本当ありがとうございます。回を重ねると段々と言うことがなくなってくるのですが、せっかく事前に資料もいただきましたし、短時間ですが読み込んできましたので、私が商工会議所、企業を会員とした経済団体としての立場です、入れておいた方が良くと思う言葉を3点申し上げたいと思います。

1つ目として、企業と書かれておりますが、やはり愛知県の計画である以上、「県内企業」「地元企業」というところをしっかりと明記いただければ、各企業の方にもそういう意識が生まれるのではないかと思います。そういった期待も込めて、「県内企業」あるいは「地元企業」という表現をぜひ加えていただけると、あるいは修正していただけるとありがたいなと思

います。やはりスポーツを通じた地域の活性化への貢献とか協力というのは、地元企業にも求められると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

2つ目として、ビジネスマッチングという言葉なんですが、イノベーションという今流行りの文言を入れていただいているのですが、企業が協力をしたり、あるいは貢献したりという部分でいくと、何かメリットがないといけないものですから、よくバイヤー、サプライヤーと言われるのですが、やはりあるものが欲しい、あるサービスが欲しいと思われるところで、提供します、あるいは売りたいですというところをつなぎ合わせることで愛知県にとって大事な役割の一つかなと思いますので、産業振興も含めて、ビジネスマッチングという言葉をごまかに入れていただけるとありがたいと思います。

それから3つ目でございますが、スポーツツーリズムやイノベーションに関連して、大村知事の強力なリーダーシップで昨年11月に「ジブリパーク」がオープンして、私ども経済界は大変ありがたく期待しています。来年度、新しく2つの施設ができて完成ということになりますが、せっかく観光で県内周遊ということであればですね、「ジブリパーク」は欠かせないかなと思いますので、色々なことで絡めてですね、もちろん武将観光を否定するつもりはありませんが、「ジブリパーク」は注目すべき点なのではないかと思います。それからもう一つが、来年に完成する「ステーションAi」についてです。これは当地域にとって非常に大きなプロジェクトであると思いますので、それを核にして、スポーツも含めてイノベーションを推進していくということも非常に大事な点かなと思いますので、施設の固有名詞とはなりますが、「ジブリパーク」と「ステーションAi」について盛り込んでいただけると良いかなと思います。

以上です。

来田座長
事務局

ありがとうございます。事務局はよろしいですか。

ご指摘をいただきましたので、もう一度全体を見直してですね、文言の整理や「ステーションAi」の記載など、書きぶりを充実させていきたいと思っております。

来田座長

何ヶ所か関連するところが出てくると思いますので、よろしくお願ひします。それでは小島委員、よろしくお願ひします。

小島委員

愛知県高等学校体育連盟の小島です。ご説明いただきましたように、年末に発表された国のガイドラインに基づいて修正等をしていただいております。ありがとうございます。

私からは、資料の20ページの部活動の関係について、少しお話をさせていただければと思います。20ページの上から3つ目の丸、4行目のところで、「効果的で持続可能な部活動を目指していく」と書いていただいております。私どもとしては、部活動は教育的意義のあるものと思っておりますので、持続可能な形で継続していきたいと思っております。持続可能なものとしていく上では、やはり上から1つ目の丸にあります、部活動総合指導員等の充実が必要であると思っております。部活動指導員について、国のガイドラインでは、「学校の設置者は、各学校の生徒や教師の数、部活動

指導員の配置状況や校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員を積極的に任用し、学校に配置する。また、教師ではなく部活動指導員が顧問となり指導や大会等の引率を担うことのできる体制を構築する。」と書かれておりますので、20 ページの方一番上の、1 つ目の丸の記載ですと、「部活動総合指導員や部活動コーチの確保や資質向上に努める」ということで、「努める」で止まっておりますので、努めるだけではなく、例えば部活動総合指導員や部活動指導員の確保や資質向上に努め、指導や大会等の引率を担うことのできる体制の構築を目指す、そこまで踏み込んで書いていただけるとありがたいと思います。

来田座長 ありがとうございます。それでは、次に田中委員お願いできますでしょうか。

田中委員 はい、名古屋グランパスの田中です、よろしくお願いいいたします。まず、色々な意見を計画に反映していただいてありがとうございます。私の方からは、文言の統一を図ると良いのかな、という点が何点かございます。

まず 12 ページのところ、「スポーツ人口の裾野拡大」の 2 つ目の丸で、「プロスポーツチーム・実業団チーム」という記載をしていただいております。一方で 19 ページには、先ほどの説明にてご紹介いただいた一番下の丸の部活動振興のところ、ここには「スポーツチーム」と記載いただいております。ここはどのようなイメージをされているのかということを確認する必要がありますが、プロスポーツチームといった文言を加えていただくと良いのかなと思っております。同じく 36 ページのところ「スポーツチームの連携・協働」、こちらはプロスポーツチーム等といった形で記載をいただいておりますので、文言のところ少しバラバラな印象がありますので、統一を図った方が良いのではないかと思います。

来田座長 はい、ありがとうございます。それでは、次に中嶋委員お願いできますでしょうか。

中嶋委員 愛知県社会福祉協議会障害者スポーツ振興センターの中嶋でございます。私の方からはですね、障害者スポーツの関係でお話をさせていただきたいと思っております。資料の 13 ページ、14 ページあたりになるかと思います。

「障害者スポーツの推進」ということで、色々な施策を盛り込んでいただきました。この中で見ていきますと、「県社会福祉協議会と連携して」という文言があちこちに散らばっております。私どもはですね、愛知県から事業を受託して障害者スポーツの大会等を実施しているというところがございまして、計画を見て、改めてしっかりとやっていかないといけないなと思ったのが第一印象です。その中で、現場で大会等を運営している側として感じているのが、大会等の参加者の方はやはり、移動に非常にハンディキャップを持ってみえるということです。特に学生さんなど、やはり親御さんの送り迎えがないと大会等には参加できないという状況が現実でございます。そういうところを踏まえると、やはり移動にハンディキャップがあるため、大会等の参加に足が遠のいてしまうということもあります。

そのため、今回特に取り上げていただきました、地域のスポーツ環境の充実のところですね。統合型地域スポーツクラブの活用とか県立学校施設の有効活用、こういった取組を推進していただければと、障害のある方が

自分の住まいのすぐ近くで手軽にスポーツに取り組めるという状況が出てくると思いますので、ぜひ積極的に進めていただければと思います。まずは身近なところでスポーツに親しんでいただいて、一生懸命取り組んでいただければ、次は大きな大会にも出ようかなというようなところにもつながってくると思いますので、やはり身近なところでスポーツを始める、スポーツに親しむというところが出発点になってくると思います。

公共交通機関をはじめとする社会インフラのバリアフリー、ユニバーサルデザインは、かなり時間がかかる施策だと思っておりますので、やはり身近なところでスポーツに親しめるような、この辺りの施策を今回盛り込んでいただきましたので、ぜひ進めていただきたいと思っております。

来田座長 ありがとうございます。ちなみに公共スポーツ施設へのアクセスについては課題や問題はありますか。

中嶋委員 公共施設では便利なところもございますが、駅から近ければ良いのですが、なかなかメインの駅から近いところがないところが多いものですから、やはり駅からはバスに乗るとかですね、陸上競技場は特に当てはまると思います。市町村の施設でも、やはりアクセスが難しい場所に立地しているものもあります。そのあたりが改善されれば良いのですが、やはり時間がかかります。費用もかかることだと思っておりますので、身近なところで楽しめる環境を整備していく方向性の方が早いのかなというようなことは感じております。

来田座長 ありがとうございます。確かに時間がかかるのですけれども、時間がかかるから施策に載せなくても良いということではないと個人的には思います。これは都市整備の部署等も関係があることなので、部局間調整はもちろん必要になりますが、御意見を踏まえて身近なスポーツ環境を充実させつつ、スポーツ界から公共スポーツ施設の整備を県全体に発信していくというふうな文言が入ると望ましいかなと思います。

ありがとうございます。それでは平井委員お願いできますでしょうか。

平井委員 オンラインで失礼致します。答申案について、上手くまとめていただいて本当にありがたく思っております。私の方からは、20 ページ、21 ページに関することについて意見を述べさせていただきたいと思っております。

先ほど小島委員から、20 ページの丸の3 つ目、「効果的で持続可能な部活動を目指していく」という点についてご指摘があったかと思っておりますけれども、愛知県中小学校体育連盟という立場からしても、ここをしっかりと盛り込んでいただけたことは大変ありがたいことだと思います。私は日本中学校体育連盟にも関わってまして、今後の色々な動向を踏まえて意見を述べさせていただきたいと思っておりますけれども、例えば21 ページの丸の2 つ目、「教員の意欲にも配慮し、地域において指導を希望する教員の兼職兼業について、各市町村において適切な運用がなされるよう周知していく」とありますけれども、国の方が部活動はもう教員の本来の業務ではないということは明確に示しているところでありまして、教員が部活動に対してどれだけモチベーションを持てるのか、というところが先立ての日本中学校体育連盟の会合の中でも話題になっていました。もちろん、部活動の指導をすぐにやめていくということは起こり得ないと思っておりますけ

れども、スポーツ振興の観点で、運動に親しむ機会を作り出してきた中学校の部活動が今後減少していく、縮小していくという方向性は避けられないのだろうと理解をしています。

その結果、先ほどのご意見にもあったかと思えますけれども、大会運営など色々なところに影響が出てきてしまうだろう、今まで当たり前でできていたところができなくなってしまうだろう、もちろんその中には、少子化が進行する中で、部活動自体が立ち行かなくなってしまうということも当然出てくると思えます。日本中学校体育連盟、また愛知県中小学校体育連盟としても、そこに対応した新しい制度を設計していただいておりますし、県教委としても部活動の地域移行ということで、色々こうした取組をしていただけるかとは思いますが、この計画の計画期間である 2027 年度までの 5 年間においては大きな変化はおそらくないとは思いますが、体力のあるうちに、地域移行を含めた、部活動が持続可能になるようなシステムへの移行が円滑に進んでいくことを期待したいと思っております。

事務局

今のご指摘を踏まえまして、部活動については色々国の方角性が変わってしまっていて、今月末にスポーツ庁の説明会があるとも伺っておりますので、しっかりと状況を把握しながら検討を進めてまいりたいと思っております。

來田座長

今の平井委員のお話を伺っていて、“意欲に配慮する”ということなのかなと思うんですね。つまり、モチベーションがある人がやりやすくなるように、ということを見ると、ライフスタイルに配慮するとか、そういうことなのではないかという気がします。どちらかというと、“意欲のない人はもういいよ”と読めなくもないですので、そのあたりも考えていただけると良いと思っております。

井澤委員

大変申し訳ございませんが、時間が来ましたので、ここで退席させていただきます。

來田座長

承知しました。

それでは藤嶋委員、お願いします。

藤嶋委員

愛知県スポーツ協会の藤嶋でございます。よろしくお願ひいたします。県スポーツ協会という名称も随所に入れていただきまして、大変身の引き締まる思いで読ませていただきました。

私からですが、まず一つ目として 15 ページ、総合型地域スポーツクラブの「登録・認証制度」について記載をしていただきありがとうございます。この中の後半の部分、「当該制度の運用について定期的に効果検証を行い、より良い制度となるよう検討を重ねることにより」というふうに記載があるのですが、確かに制度は愛知県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が最終的には作るのですが、大本は全国協議会で作ってございまして、制度を変えることはなかなか難しい。ハードルを上げるだけの話になっていきますので、例えば「より効果的な運用を推進することにより、各クラブが地域において役割を果たせるように支援していく」というような文言の方が適切ではないかと思っております。

それから、本文の書きぶりについて少し疑問に思う点としまして、24 ページの「あいちトップアスリートアカデミーにおける地元出身選手の発掘・

育成」のところの3つ目の丸、「取組の幅広い周知・広報を通して、競技人口の維持・確保につなげるとともに」とあるのですけれども、トップアスリートアカデミーの取組を周知・広報することで競技人口が変わっていくのかと言えば、少し難しいのではないかなと感じております。例えば参加人数を確保していくとか、少し手前の目的となってしまうので寂しい気もしますが、競技人口まで言及できるのかなという点が少し引っ掛かりました。

それから、今更難しいのかもしれませんが、以前にも少し申し上げましたが、県スポーツ協会にはスポーツ少年団という非常に大きな団体があり、団員は1万7千人、それから指導者は2,500人くらいで、スタッフ、関係者が2,500人くらいいます。例えば公認スポーツ指導者が9千人だということ、スポーツ少年団の指導者は2,500人と、これも制度が変わったために5千人から2,500人くらいに減ってしまったということもありますが、非常に大きなウェイトを占めている部分ではあります。何とか計画に盛り込んで欲しいと思い、私も一生懸命読んでどこか入れるところはないかなと思ったのですが、なかなか見つかりませんでした。ただ、17ページの「Ⅱ 子どものスポーツ活動の充実」の現状・課題あたりに入れることは可能かなとは思いますが。

実はJ S P Oも、今後スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブを統合していくという方向性を打ち出しており、非常に大きな課題になっているのですけれども、そのところを書くとなかなか難しい部分もあると思います。“もし入れば”ということではありますけれども、お願いできればと思っております。

それからキャッチコピーになりますが、実は私も、第1期の愛知県スポーツ推進計画で関わりが少しありまして。最初は確かですね、「スポーツあいち さわやかプラン」だったんですね。2回目が「いきいきあいち スポーツプラン」だったんですね。どっちがどっちか実はわからなくなってくるというところがあってですね。非常に捉えやすい言葉で、イメージが湧きやすいというところがあって良いのですけれども、どうしても同じような形になりがちなので、今回の計画は、“これだからこういうキャッチコピーなんだな”というところが分かれば非常に良いと思います。難しいだろうなと思いつつも、お話をさせていきました。

來田座長

ありがとうございました。1巡目が終わりました、私の方からもいくつか気がついたところをお伝えしたいと思います。

まず10ページ、ここは全体に関わる場所なのですけれども、基本理念、目指すべき姿といった計画の柱になる場所なのですが、ここに数値目標に関する位置付けがないまま、いきなり各施策の中で目標が出てくるという形になっているため、例えば“客観的な数値で取れるように”とか、多様な人々がスポーツに参加できるようにという意図で盛り込んだ数値目標もあると思いますので、その意図をここに書いた方が良いのではないかと思います。

同時に、資料5において寺田委員がご発言されているような、“新たな課題に目を配り、その解決に向かって取り組んでいく”という視点とか、資

料6において、パラスポーツ協会が“ネガティブな理由によってスポーツに関わらなくなった人にアプローチする”というようなことを発言されていますが、これは数値では測れないですよ。やはり質的に見ていかないといけないと思います。例えば、SNSのフォロワー数を見ても、一体何が発信されたのかということがなければ、おそらく最終的には課題に近づけないだろうということもあるので、数値目標では捉えられない質的なものについても目配りをするという方向性がある、その上での数値目標なのだ、ということを書いた方が良いのではないかと思います。それを一度検討していただきたいと思います。

それから、11ページに多様な主体ということがあって、そこから比較的分量が多いので、今回の計画ではこの部分にかなり力を入れて進めていくのだということが表れています。見てみると、「多様な主体」のターゲットセッティングとして、文言として挙がっているのは障害者と子ども、それから子育て世代、高齢者です。愛知県は外国から移住されている方も多い。そうした人たちが見えなくなってしまうので、具体的な文言として施策にまで落とし込んでいなかったとしても、自分たちは誰を見ているんだということを書いておいた方が良いのではないかと思います。

それから36ページになります。eスポーツを盛り込んでいただいたのですが、eスポーツというと、おそらく暴力的なゲームなども含まれてきてしまうと思いますので、「バーチャルスポーツ」という言葉を使うことを一度ご検討いただければどうかと思います。IOCは「バーチャルスポーツ」を採用しておりますので、見ていただけたらどうかと思います。

そして、この計画は5年間推進していくのですが、愛知県スポーツ推進審議会がモニタリングの役割をしているという位置付けだと思いますので、この計画の中にも審議会の位置付けを書いて、目標数値のモニタリングをしながら、できれば柔軟に施策のあり方を議論していくという方針を書いた方が、審議会の実態とうまくマッチするのかなと思います。それも先ほどと同様に、一番最初のあたりに入れてはどうかと思います。それから、「終わりに」みたいな文章も追加していただければと思います。

あとキャッチコピーですけれども、いくつかご意見が出ていて、なるほどな、とそれぞれお伺いしていたのですが、2026年の愛知アジア大会・アジアパラ大会のキャッチコピーが「ここで、ひとつに」なのですね。これとつながっているのが良いのではないかなと思います。「誰もが、スポーツで、つながる未来」というのを確認しながら、未来をどうするのかという修飾が少し入ると良いかなと思います。そうすると、この計画は、やっぱりアジア・アジアパラ大会に向かって、それと一体化させていくんだということが表示されるのではないかなと思います。これは個人的な意見となりますが。

それでは2巡目に入っていきたいと思います。今度は資料3を見ていただきながら、ご意見をいただきたいと思います。伊藤委員からお願いします。

伊藤委員

資料3の数値目標についてコメントを述べさせていただきたいと思います。

最後のページ、6ページの「スポーツによる地域活性化」のところですね、何点かあるんですけども、まず1つ目の「県外・海外からの参加者数」については、全体的にはこれでいいかなとは思いつつも、将来的にも少し考えていただきたいところが、「県外・海外からの参加者数」となりますと、例えば県が主催するスポーツ大会でウィメンズマラソンなど大きな大会もありますが、定員が決まっています。そのため、横ばいになる可能性がすごく高い。特にウィメンズマラソンのような大きな大会で、海外のコロナの規制が終わった後は、定員の上限に達することが続くと思いますので、できれば参加者数よりも応募者数を見た方が、愛知県に行きたいと、このイベントに参加したいと思う人の数が測れるのではないかなと思いました。

あとは、2つ目の「国際スポーツ大会の開催数」のところ、前回の会議においても“国際大会は数年前に開催が決まっているのではないか”という趣旨のご意見があったと思います。確かにその通りだなと思います。先ほどご紹介のあった世界弓道大会も来年に決まっている。年度をまたぐため、今年度の実績としては換算できないといった点はどうしても出てくると思いますので、開催数というよりは、決定数といった形とした方が実態を反映できるかなと思いました。

あとはですね、やはり数値目標が一体どのくらいになるのかというのは興味があるところで、そのあたりもここで議論ができれば良かったかなと思いました。私からは以上です。

來田座長

今のお話の中で、目標値について議論するための会議はないのですが、目標値を設定した後に、委員の皆様には展開することは可能ですか。

事務局

最終的に審議会から答申をいただく前には、皆さんにご覧いただけるようにしたいと思います。

來田座長

無理のない範囲でお気づきの点があればご指摘いただければ良いかなと思います。それでは大勝委員、お願いします。

大勝委員

私の専門分野では、子育て世代のところは、「30代、40代のスポーツ実施率」が盛り込まれており、子どもについても別の項目で盛り込まれていますので、これで良いと思っています。

別の項目になりますが、総合型地域スポーツクラブに関する項目の下から2つ目、「新規加入会員数」という項目についてです。考え方として「プログラムの充実に向けた取組の進捗状況を把握するため」とあり、目標項目と設定の考え方がつながるのかという点を疑問に思いました。その下にある「登録・認証制度」に関する指標は、おそらく質的なものも含めて保証していく制度の趣旨に基づく指標だと思いますので、ここをあえて新規加入会員数を数値目標としなくても良いのではと思いました。井澤先生も退席されましたので直接議論はできませんが、個人的にはここに手を加えるべきではないかと思いました。

あと1点、先ほど審判に関する話をさせていただきましたが、可能であれば「国際・上級審判員」だけではなくて、やはり審判員の確保・育成に取り組んでいる団体数といった目標についても、トップアスリートの項目に入れていただきたいと思います。アジア大会は国際大会になりますので、

「国際・上級審判員」をアジア大会の項目で整理することは良いと思います。

来田座長

ありがとうございます。大勝委員が触れられた2つについて、井澤委員はですね、参加者数ではなくてプログラムに関わる方の人数とした方が良く、とご発言して退席されたと思うのですけれども、それとの関連で言えば、プログラムの充実について新規加入者数で正しく測ることができるのか、という疑問には私も同感します。むしろ総合型スポーツクラブの多様性、世代やジェンダーといった多様性が高まれば、プログラムの充実がなされているという測り方はあるかもしれないですね。

大勝委員、いかがでしょうか。

大勝委員

新しいプログラムを展開していくというところで、参加者の属性を見ていくというのは、検討する余地があると思います。新規で入ってきた人が多ければ、プログラムの充実につながるのかというよりも、子どもから大人までとか、性別や国籍まで取れるのかは分かりませんが、多様性を測るための様々な視点があれば良いと思います。

来田座長

そうですね。新しく入っていただきたいのは当然だけれど、多様性が高まっているのか、そういった視点ですね。

藤嶋委員

総合型地域スポーツクラブということで、県スポーツ協会が取り扱うものもありますので発言をさせていただきます。新規加入会員数といったところ、私もここは少し引っかかりがあったところでありまして。辞める人もいれば、入ってくる人もいる、ということもあるので、新規だけ捉えれば良いのかと言えばそういうわけでもないような気もしていました。

一方で、統計処理という問題があって、皆さん十分ご存知かと思いますが、クラブのスタッフの方々は非常に疲弊している部分がございます。分かりにくい指標でこちらから要求するというのは、なかなか難しいところもあるのではないかなと。そういった部分もありますので、比較的統計処理がしやすい数値にさせていただけると、私としては非常にありがたいかなと感じるところがあります。よろしくお願いします。

来田座長

本当はそういった数値がデータベースでつながっていくことが望ましいんですよ。入力しておく、全県の様子がわかるというふうなところに行かないと、人的資源が足りなくなってしまうんですよ。この計画の次の計画の段階で、この施策に関わる方がいらっしゃれば、そのあたりを入れていただいたらどうかなと思います。

それでは大竹委員、お願いできますでしょうか

大竹委員

資料3の5ページ、6ページのところでお話をさせていただきます。

「県内における新たな国際スポーツ大会の開催数」という項目があり、現状1件となっていて、6ページには再掲となっていますが、確かに新たな国際スポーツ大会がどれだけあるのかという点は興味深いところではありますが、これだけだと一桁とか、劇的に数字が増えるのはなかなか期待できないかなと思うと、例えば県に関わる、あるいは県が主催する MICE の件数、Aichi Sky Expo もそうなんですけれども、MICE の件数がどうかということの数値として追うことも検討の余地があると思います。必ずしも大会だけではなく、会議をはじめ、色々な動きがあると思います。その

ため、MICE という観点で検討していただくことをご提案したいと思いを
す。

もう一点、この項目の中には入っていないのですが、先ほど申し上げま
した「ステーションA i」というところで、やはりイノベーションとかス
タートアップの動きの中にも、企業や新しい経営者の方がスポーツに絡め
て色々な動きを考えていると思いますので、企業数なのか取組件数なのか
は分かりませんが、イノベーションに絡めた「ステーションA i」
の動きを数値としてどう把握していくのかというところを、一度担当の経
済産業局にも確認されると良いのかなと思いました。

来田座長
事務局

ありがとうございます。事務局はよろしいですか。

ご指摘の点については、関係部局とも調整して盛り込めると良いと思
っています。

来田座長
小島委員

ありがとうございます。それでは小島委員、お願いします。

私からは3ページですね。「II 子どものスポーツ活動の充実」について
ですが、高等学校の立場としますと、一番下の「運動部活動における外部
指導者の活用数」の項目を盛り込んでいただいてありがたく思っておりま
す。特に項目として申し上げることはないのですが、本日申し上げること
でもないのかも知れないのですが、目標値の設定について、例えば県立の
高等学校は愛知県で約 150 校あり、現在 36 人ということではありますが、
正確な数ではありませんが、他県では本県よりも学校数が少ない中で指導
員の数が多いというところも多くございますので、目標値の設定に当たっ
ては、他県の状況等も踏まえて設定いただくとありがたいと思います。

事務局

目標値については色々な調整があるとは思いますが、教育委員会とも相
談して設定してまいりたいと思います。

来田座長
田中委員

ありがとうございます。次に田中委員お願いいたします

私の方からは、6 ページの「V スポーツによる地域活性化」のところ
なのですが、もし追加いただける余地があるようでしたら、スポーツの参
加者数とかスポーツの開催数、イベント数は記載されていますが、「みる」
スポーツに関する数値目標が入っていないという点が気になりました。

やはり答申案の中でも、選手との交流、「みる」スポーツの機会の創出で
あったり、「みる」スポーツへのきっかけとなる企画や、地域住民のシビッ
クプライドの醸成といった記述がありますが、スポーツを見に行っただけ
がある県民を増やしていくということが数値目標にあると、特に 2026 年
のアジア大会が愛知県のスポーツの一大イベントになりますので、そこ
に向けてスポーツを「みる」環境を整えていくことや、観戦者を増やして
いくきっかけ作りになるのではないかと考えておりますので、ぜひとも検討
していただくとありがたいかなと思っています。

来田座長

ありがとうございます。「みる」スポーツについての観点はありませんで
したか。

事務局

そうですね。その観点も入れていきたいと思えますし、バスケットボー
ルBリーグの新しい基準によりますと、平均して4千人以上という観客数
を必ずクリアしていかななくてはならないということで、ものすごく努力さ
れていますので、そういった点も踏まえながら、スポーツマーケティング

という観点では、お金が入らないことにはなかなか持続可能なスポーツができないということもありますので、「みる」スポーツについても数値目標として盛り込んでまいりたいと思います。

來田座長
中嶋委員

ありがとうございます。それでは中嶋委員、お願いします。

2 ページの関係で、障害者スポーツの大会や、参加促進事業の参加人数ということを目指に入れていただいています。私どもが大会を開催するに当たりましては、基本的には会場と、参加していただくボランティアさんと、それから参加者の募集など、そういった業務のコーディネートのようなことをしておりますが、実際の大会運営に当たっては、ボランティアさんが中心になって活動していただいております。

その意味では、「ささえる」人材の確保に向けた指標として、大会に参加するボランティア数とか、県の方でも今後力を入れていかれるパラスポーツサポーターの養成人数とか、こういった指標を踏まえてぜひ取組を進めていただきたいと思います。

また、アウトプットとして、大会出場者や参加者数ですね、このあたりも全体を見渡すような指標として非常に良いと思っております。

ただ、大会の出場者数についてもですね、人口減少が進行する中で、子どもの数が急速に減少していくような状況ですので、常に右肩上がりというようなことはなかなか難しいのだろうなということを感じております。

來田座長
平井委員

ありがとうございます。それでは平井委員、お願いします。

3 ページであります。先ほども運動部活動における外部指導員の活用についてのご発言もありましたが、あえて県立学校の数字のみを位置付けているのは、中学校の部活動指導員については把握が難しいという理解でよろしかったですかね。

答申の中には、中学校の部活動指導員についても記載があったかと思えますけれども、このあたりはいかがでしょうか。

事務局

教育委員会と確認して、把握ができるようであれば盛り込んでいければと思います。

平井委員

色々な市町村の教育長等と話をする中では、やはりここ2～3年については部活指導員を増やしていきたいと強く言っておられるところがほとんどだったので、数値としては良いものが出てくる可能性が高いかなと感じております。

事務局

教育委員会保健体育課です。部活動総合指導員については県として増やしていきたいと考えており、その考えのもと数値目標として盛り込んだところですが、中学校の部活動指導員の方はですね、市町村の状況により今後の増減を見込むことが難しく、目標数値を設定することがなかなか難しいところがございます。そのため、こちらの方には載せていないという状況になります。

來田座長
事務局

ありがとうございます。

例えば、目標として設定しなくともデータとして整理して、審議会にお示ししていくという方向性もあるかとも思いますので、どういった進捗管理をしていくのかということについて、教育委員会と調整させていただきたいと思います。

來田座長

そうですね。議論のメモのような位置づけとして、数値目標に限らず、“こういうものも見ていかななくてはいけない”といったご意見が出ているものもあります。そうしたものをスポーツ推進審議会に示して、その観点でも議論をしてほしいというふうに依頼するといったやり方はあり得るかなと思います。ぜひそういった工夫をしていただければと思います。

それでは藤嶋委員、お願いします。

藤嶋委員

4ページ、「国民体育大会本大会における出場種目数」とありますが、今年の東海ブロックの通過率は非常に悪かったのですけれども、これは私の予想では、三重国体が昨年中止になりましたが、その選手が多く残っていて、東海ブロックに参加してきたというのが原因かなと思っています。国体が開催されると、その年は東海ブロック大会の通過率は高まります。そういった変動を十分に踏まえた上であれば、これを指標として捉えていただくことは結構かと思っています。

それから、「スポーツ団体ガバナンスコード」の遵守を公表する県内の競技団体数」ということなのですが、これは県スポーツ協会の加盟団体ということでしょうか。加盟していない団体もありますので、そのところはどうかかなということと、県スポーツ協会の加盟団体となると、地域加盟団体は良いのかとか、県スポーツ協会の目標としては、“加盟団体全部”というふうに言っているのですが、その認識で誤りはなかったでしょうか。

事務局

競技・施設課長でございます。ガバナンスコードについては藤嶋委員のご指摘の通りでして、県スポーツ協会の経営改善計画だったと思うのですが、そこで目標値として掲げている方向性に沿って数値を把握していくというのが現実的かなと思っておりますので、今想定してるのは、県スポーツ協会の加盟団体という考え方でございます。

それから国体については、本質的には国民体育大会に出場される選手、あるいは関係者の皆様方の数が増えていくということが望ましいかとは思っておりますが、ご承知の通り、国体出場選手の総数というのは決まっています、隔年競技があったりとか、毎年毎年競技数が変わってくるものですから、実際、数が増えたからといって成績が良いというわけではない。例えばですけれども、団体競技が勝ち抜けば人数が大きく増えますが、個人競技がたくさん勝ち抜いても人数が増えないというパラドックスが出てしまってますね。これを効果的に示すためには、突破率もしくは出場種目数が適当と考えております。出場種目数というのは、本大会であれば37競技にそれぞれある男子・女子・成年・少年というカテゴリーを全部集計したものを種目と捉えているのですが、突破率もしくは出場種目数が増えることによって、愛知県として競技力が高まったというか、一つでも多くのカテゴリーで全国に進めることができたということになるわけですね。国体に関して言いますと、最もこれが本質的な数値目標になるかなと考えているところでございます。

藤嶋委員
來田座長

数ある候補の中から選ばれたということですので、結構かと思っています。

ありがとうございます。審議会の中でも目標数値については議論していく必要があるかと思っておりますので、またそこで議論ができればと思います。

実際、県スポーツ協会に加盟する団体もなくなったりとか、あるいは新たに加入する団体は少ないのですか。

藤嶋委員

現状ですと、実は最近競技団体が1つなくなりました。人口減少を受けてなかなか会費を集めることができない、そしてコロナの影響により大会も何も開けない中で収入がなくなってきて、協会への負担金の支払いが難しくなったということがあります。

新規加盟については、加盟に関する相談は時々ございますが、なかなか加盟まで手が届かないところが多くて、色々と説明はするのですが、実際には申請をしないところが多いと思います。10年ほど前はいくつかありましたが、最近はあまり多くないという状況があります。

來田座長

そういった点、競技団体が担ってきたことを総合型地域スポーツクラブがある程度カバーできるのかというあたりも問われてくるかもしれませんね。ありがとうございます。

ご発言が一巡しましたが、1巡目のときに自由なご発言の時間を設けませんでしたので、計画の答申案と、数値目標とキャッチコピーですね。これらについて他の方の意見を聞いて、何かお気づきの点がありましたらご発言をいただきたいと思います。今日が最後ですので、ぜひ自由にご発言をお願いしたいと思います。

私の方からも、数値目標の方について気づいた点をコメントさせていただこうと思います。

資料3の1ページ目、「県が主催するスポーツ大会への参加者数、観戦者数」という項目がありますが、これはパラの大会と一般の大会に分けられるということであれば、内訳という形でも良いと思いますので、数字を出しても良いと思いました。

事務局

來田座長

おそらく可能かと思います。

それから「Ⅲ トップアスリートの育成、活躍支援」のところで、今回アジア・アジアパラ大会があるということで、大会運営能力の視点に着目されているところですが、トップアスリートの育成に欠かせなくなっているのがトレーナーです。トレーナーを増やしていく必要があるということについては、国内でも議論されているところですので、どこかにそういうニュアンスを入れていただけたらと思います。一つのやり方としては、下から3つ目の「競技運営人材の強化育成に取り組む団体数」のところに、“競技力向上・運営人材”というふうにさせていただいて、その上で“人材の多様化と強化”と書いていただくことも一つの方法かと思います。新規事業ということで、来年度からデータを取っていくものですので、ある程度負担の少ない中で数字が取れると思うのですね。当然、この分野では人材の中に女性がすごく少ないということが国際的にも議論になっていますので、アジア大会に向けて準備を進めていく中でも入れてもいいかなと思います。数値目標について、私の方で気が付いたものは以上でございます。

皆さん自由に意見を出していただければと思います。それでは大竹委員、お願いします。

大竹委員

先ほどキャッチコピーについて申し上げていなかったと思ひまして、ここで発言させていただきます。

資料2に5つのキャッチコピーのイメージが示されておりますけれども、「誰もが、スポーツで、つながる未来」とか、その上の「スポーツが照らす愛知の可能性」が個人的には良いかなと思いますが、「スポーツが照らす愛知の可能性」については、確か名古屋市のスポーツ戦略においても“スポーツで名古屋の未来を照らす”といった表現を使っているのです、採用されることはないかなとは思いますが、似たものになってしまうかなと思いましたが、念のため申し上げます。

もう一点は、せっかく最後なのということなのですが、少し生意気を言いますが、資料1の3ページ以降に、「今後の社会経済の展望」ということで、出典も押さえた上で「人口の減少、高齢化の進行」や4ページの「グローバル化の進展」といったことを挙げていただいておりますが、今、やはり世の中の色々な動きが早くて、なかなかついていくのも大変なのですが、世の中は今、「メタバース」と「Web3」の時代だそうなので、メタバースは仮想空間、Web3は新時代のネット環境ということなので、計画には5Gと書いていただいているのですが、企業の動きはさらにその次を行っているものですから、社会の動きとスポーツとのコラボというのでしょうか、連携をどう図るのかということを少し意識されると良いかなと思いましたが。

来田座長

5Gの記載を取ってしまった方が良いのかもしれないですね。5年の間にもものすごく進みますよね。

大竹委員

出典の中に5Gと書いてあれば、それはそれで押さえる必要はあると思います。ただ、今の世の中、“6G”、“Beyond5G”なんて言っていますので、5年間では遅くなってしまふかなと思いましたが。

来田座長

ITの世界はものすごく進みますよね。あと、私達の分野だとジェンダー・イノベーションですね。これがやはり議論の中心になっていますので、そのあたりもそろそろ内閣府でも政策として取り上げるのではないかと思います。

それでは、議論はこれで終わらして、いただいたご意見が計画に反映されているのかということ、本来であれば会議をもう1回開いて議論いただく、ご確認いただくのが一番良いかとは思いますが、時間的な関係もありまして、審議会が開催される2月までには間に合わせなければいけないということがあります。目標値についてはメールでお知らせするなどしてご確認いただき、専門的な知見をいただければと思いますが、最終的な計画の文言については、できれば座長と事務局に一任いただいて、最終確認をしたいと考えていますが、よろしいでしょうか。個人的には大変責任が重いこととあまり一任とは言いたくはないのですが、責任を持って皆様のご意見が反映されるようにしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは事務局には、とにかくより良い計画となるよう、ここまで一生懸命ご検討いただいて、またさらに、ということで申し訳ないのですが、県民のためにぜひよろしくお願いいたします。

十分な議論が本当にできたかどうか、見逃しているところもあるのではないかなと思いますが、次の5年間でまたより良いものになっていくよう

に、継続的に見ていただければと思います。拙い司会を務めさせていただきましてありがとうございました。感謝申し上げます。ありがとうございます。

それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。

事務局

ありがとうございました。最後に、愛知県スポーツ局長の成瀬から一言申し上げます。

スポーツ局長

本日含めましてこれまで3回の会議、大変熱心にご議論いただきまして誠にありがとうございました。本日も皆様から貴重なご意見、ご提案をいただきました。2月20日に予定しておりますスポーツ推進審議会において答申をいただくまでにですね、今回お示しした案をさらにブラッシュアップして取り組んでまいりたいと考えております。

策定委員会は今回をもって終了となりますが、計画は策定も大事なのですが、いかに推進していくのかということが非常に大切だと思っております。引き続き、私どもも努力してまいりますので、これまで以上のご支援、ご協力をお願いしたいと思っております。改めてお礼を申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

事務局

これをもちまして、第4回次期愛知県スポーツ推進計画策定委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。